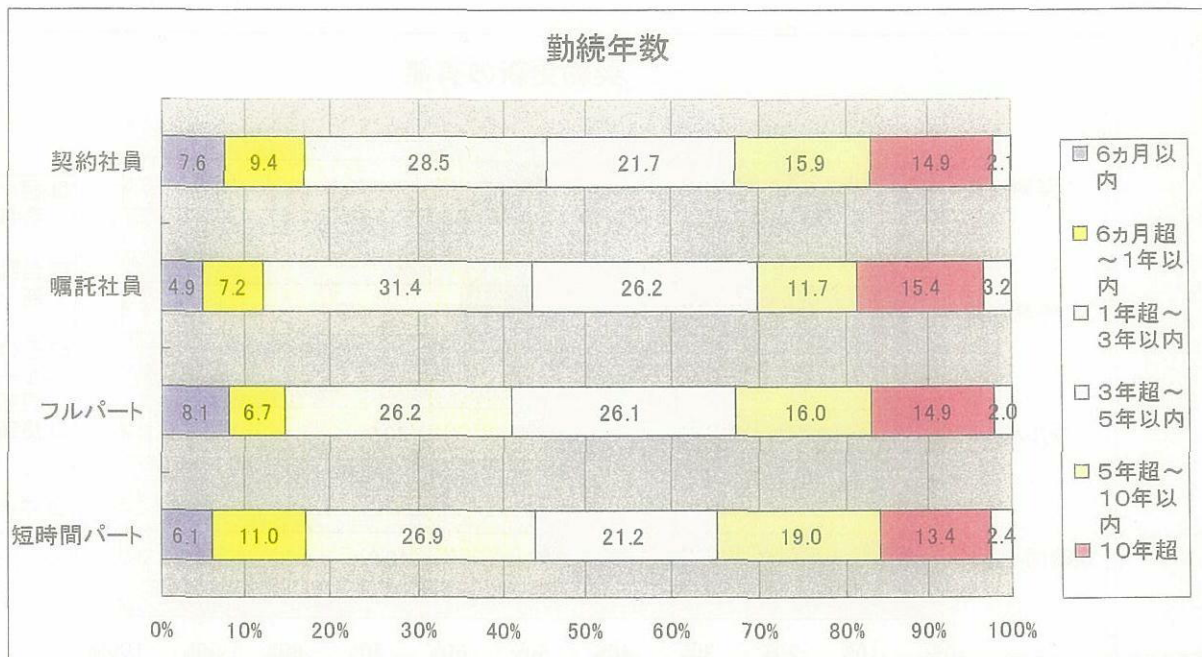


③ 勤続年数

いずれの就業形態も更新回数「1年超～3年以内」、「3年超～5年以内」の順に多く、似たような割合になっている。



④ 契約更新の判断基準

更新の際の判断基準は「本人の意思」、「勤務成績・態度」の順に多い。

